

高等学校グランドデザイン会議第1回検討会議概要

日時：平成18年5月31日（水）

13:30～15:00

場所：アラスカ会館 エメラルド

<出席者>

蛇口議長 友田副議長 相川委員 飯田委員 大久保委員 角田委員 加福委員
窪寺委員 櫻田委員 佐々木（昭）委員 佐々木（潤）委員 佐藤委員 高山委員
豊川委員 野呂委員 藤井委員 前田委員 三上委員 山田委員

1 開会

司会

それでは定刻になりましたので、ただ今から「高等学校グランドデザイン会議第1回検討会議」を開会します。

まず初めに、青森県教育委員会教育長 田村充治より、皆様へ委嘱状を交付させていただきます。なお、交付は五十音順で行わせていただきます。教育長が御席の方に参り、私の方から御名前をお呼びしますので、御起立をお願いします。

2 委嘱状交付

【田村教育長より、各委員へ委嘱状を手渡した。】

3 教育長挨拶

田村教育長

教育長の田村でございます。本日はお忙しい中、高等学校グランドデザイン会議第1回検討会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、この度皆様には当検討会議の委員をお願いしたところ、快く御承諾いただいたことに対し厚くお礼申し上げます。

さて、現在、教育委員会では、平成12年度から20年度までの、県立高等学校教育改革第1次実施計画から第2次実施計画に基づき、新しいタイプの高等学校の整備や中高一貫教育の導入などを進めているところでございます。しかしながら、中学校卒業生数は減少の一途をたどるとともに、産業構造の変化、生徒の進路意識の多様化など、高等学校教育を取り巻く環境は大きく変化してきております。

また、今後の本県の中学校卒業予定者数は、平成20年3月から平成30年3月ま

での10年間で、約2,700人の減少が見込まれております。

これらの状況を踏まえ、この度の「高等学校グランドデザイン会議」は、本県の高等学校教育の水準の維持・向上を図り、活力ある教育活動を展開できるように、平成21年度からの県立高等学校の在り方について御検討いただくための会議であります。委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から御審議、御提言を賜るようお願い申し上げます。

なお、当会議は、広く地域の方々の御意見と御理解をいただきながら検討を進めていく必要があることから、青森市だけでなく、他の地区においても開催することを予定しております。また、本検討会議は、公開で開催することとし、検討内容につきましても、その都度ホームページ等を通じて広く県民の皆様にお知らせしていきたいと考えております。

皆様には、2年という長きにわたって委員をお引き受けいただき、何かと御面倒をおかけするかと存じますが、今後の県立高等学校の在り方等について、本県高校生が夢を育むことができるような御検討をいただきますよう、よろしくようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

4 高等学校グランドデザイン会議設置要綱説明

【事務局が、「高等学校グランドデザイン会議設置要綱」を読み上げた。】

5 検討会議議長及び副議長選出

【委員の互選により、議長に蛇口委員、副議長に友田委員が選任された。】

蛇口議長

只今、皆様の御推薦をいただきまして、議長を務めさせていただきます蛇口でございます。本会議の議長としてふさわしいかは分かりませんが、大変重要な会議だと思っております。友田先生始め、皆様の御支援、御協力を得ながら務めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

6 諮問

司会

ありがとうございました。

それでは、次第の「6 諮問」に移ります。教育長より、高等学校グランドデザイン会議検討会議議長へ諮問します。

教育長

次の事項について、別紙理由書を添えて諮問します。

今後の県立高等学校の在り方について

- 1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方
- 2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方
- 3 県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方

これらのことについて諮問いたしますので、御検討よろしくをお願いいたします。

蛇口議長

只今、教育長さんから御諮問いただきました件につきまして、我々委員で議論を尽くし、よりよい答申に至りますよう頑張りたいと思います。

教育長

よろしく申し上げます。

7 諮問事項説明

【三上県立学校課長が、「諮問理由書」を読み上げた。】

司会

それでは、ここで5分程度の休憩をとりたいと思います。会議は14時ちょうどから再開いたします。よろしく申し上げます。

なお、教育長は所用のため大変失礼ながらここで退席させていただきます。

教育長

どうぞよろしくをお願いいたします。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

## 8 各専門委員会委員長及び副委員長選出

【委員の互選により、第1専門委員会委員長に豊川委員、副委員長に前田委員が、第2専門委員会委員長に高山委員、副委員長に佐々木潤一委員が選任された。】

## 9 各地区部会部会長選出

【委員の互選により、東青・下北地区部会長に佐々木昭則委員、西北・中南地区部

会長に野呂委員、上北・三八地区部会長に加福委員が選任された。】

## 10 審議日程

蛇口議長

続きまして、次第の「10 審議日程」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

【事務局が、資料に基づき説明した。】

蛇口議長

はい。ありがとうございました。

今日はまだ最初の会議ですので、今後どのようなシナリオで進むかはこれから実際に進めてみなければ分からない面があると思います。7月以降は、このように進めてみるということだと思います。

また、それに関連しまして、先程教育長さんの御挨拶にありましたように、検討会議の開催場所は青森だけでなく、弘前地区や八戸地区でも1回くらい開催するよう、事務局には検討していただきたいと思います。これは、我々検討会議委員の総意ということでよいのではと思います。地区問題に深く関わってますので、なるべく色々なところで開催されるよう期待してますので、ひとつ事務局の方で御検討されるようお願いいたします。

その他、審議日程について御意見、御質問がありましたらどうぞ。

## 11 資料説明

蛇口議長

検討会議と専門委員会が情報や検討結果等をやりとりする、この「高等学校グランドデザイン会議」の特徴的な側面がまだ描ききれない委員の方もいらっしゃると思います。専門委員会がやるべきことについて、地区部会、検討会議との関わり方を中心に、資料説明を15分程お願いします。

また、先程の日程につきましても、何か御質問があれば御審議をお願いしたいと思います。

【事務局が、資料に基づき説明した。】

## 12 質疑応答

蛇口議長

皆さんもお疲れ様でした。

皆さんは、このような世界の専門家でいらっしゃいますが、私などには理解するのが難しいところもあります。

諮問されたのは公立高校のお話しですが、「それだけの問題なのかな」という気持ちもあります。地域のニーズをよく考えて答申をくださいと言うが、地域のニーズとは何なのでしょう。この理由書を見ると、お役人さん自らもやはり、書くのに苦しんでいるようです。様々な転機を迎えているということなのか、ぱっとした正解というものがない時代になっていると思う。

あと20分しかありませんので、次回の7月20日に大いに議論することとし、この検討会議が何をやるのかという、方向性だけについて意見交換させていただきたい。次第には質疑応答と書いてありますが、せっかく論客の皆さんがいらっしゃるので、意見交換の場としたい。

「世の中は変わった」と誰もが言いますが、本当に変わったということ認識しなくてはいけない時代になっている。今までの延長線上で本当によいのか。議論を尽くすということは、結局そういうことだと思います。

私学関係者だから言う訳ではないですが、私学あるいはNPOのような組織の役割が重要になると思います。教育においてもそうだと思います。お金を使うことと、効果を生むことは、やはり相当効率が問われていく時代になります。客観的な見方であれば、そういう観点からの自由な討議も許されるのではないかと思います。

それから、進学進学と言いますが、職業学校的なものの中身が大事です。ドイツ、スイスに18年駐在したので、ややヨーロッパ風な考え方ですが、今こそ職業学校的な意識を持たなければいけない時期だと思います。専門高校とか普通高校という、現在の区別ではありません。普通高校と呼ばれる学校にだって、本来は職業高校みたいなところもありそうです。

また、まず、少したがを外すと言うのは変ですが、他の県もやってるように、工業、水産、商業など全部ひっくるめたような学校や、そういうことまで検討してみてもいいのではないのでしょうか。今までの日本ではあり得なかったことですが、それくらいに時代が変わっていると我々が認識してよいのではないかと思います。

しかし、それが全部答申に書かれるかということ、そうではないと思います。少子化という厳然たる事実があり、十数年後には、中学校卒業者が12,000人程度まで減っていく。このような状況では、学級・学校の再編は、相当程度のペースでやらざるを得ないでしょうが、市部を重視するのか、地域のコミュニティーを重視するのかという議論はやらなくてはいけない。議長私案ですが、その議論は主に専門委員会や地区部会でやることですが、この検討会議ではそのことについても、少し大所高所なところからやっていけばよいのではないかと、というような仕分けを考えています。

あと15分程度しかありませんので細部に入るのは止めていただいて、これは少し

違うのではということがあれば、少し御検討いただきたいです。

副議長さんいかがでしょうか。相談もせず、議長が勝手に言っているところもありますが、やはり、ある程度の議論は止むを得ないのではないのでしょうか。むしろ、理性的な議論であれば、そのような時代感覚でよいのでは。私は民間なものですから、9年前の「青森県高等学校教育改革推進検討会議」から今までの議論の経緯というものもあるかとは思いますが、時代変革の捉え方が、我々とは少し違うかなと思うところがあります。

子どものため、あるいは地域社会のために、皆さんがどういうふうを考えるかをどうぞお聞かせください。

#### 友田副議長

数がどんどん減っている中で、各学校の規模や配置の数値的なことについて、この検討会議ではやはり答申で報告する必要はあると思います。ただ、議長がおっしゃるように、理念と言うか、ポリシーも必要でしょう。

私は昭和22年生まれで、正にベビーブームでものすごい人数でした。高校は、1学級55人で12クラスあり、その中でもまれてきた世代ですが、今の子どもたちは半分以下です。しかし、少ないからと不平を言ってもしかたがないので、生徒1人1人をできるだけよく育てる教育環境とはどうあればよいか、ということを経験として出していければと思います。

#### 蛇口議長

ありがとうございました。議長・副議長の意見に関して、どなたか御意見ありましたら、忌憚のないところをおっしゃってください。

#### A委員

我々も色々な地域で、地域づくり、あるいはコミュニティービジネスを通じた雇用創出や産業の育成に、少しずつ関わっています。その時に一番感じるのは、将来に夢や希望を持つ、あるいは高校生が自分の地域に誇りを持つことが、非常に重要なのではないかと思います。途上国の子どもと日本の子どもを比べると目の輝きが違うと言われますが、そういうものを目指す必要があるのではと思います。

このような検討をする場合、やはり地域に開かれたとか、地域社会とどう結びつくかということを経験して是非考えていただきたいと思います。例を挙げると、学校が地域の人たち・企業・NPOと一緒に何かをやり、そこで生徒達が現実で現場に触れるということが多分必要になってきます。議長がおっしゃる職業学校的な意識・要素が非常に重要だと思います。

青森県は農業に力を入れています。農業学校がどんどん開かれていく。企業・NPO・大学と協力していく。そういう中で生徒が自信を持ち、親が関わって一緒に農業

をやってみる。そこで、例えば物を売っていくという視点が重要です。県内では柏木農業高校が面白いのではと思います。発光ダイオード、小型風車を導入して、実際に現場に企業が入ったり、地域の農家が入って授業をやったり、実験的な取り組みをしているようです。それを対外的な販売に結びつける試みも行っており、一定の効果をあげています。そのような視点が重要です。

蛇口議長

貴重な意見をありがとうございました。

今までは市部の高校の学級数を減らし、郡部の生徒数が相対的に増えている訳で、事実上コミュニティーの自立を支援しているのですが、それをこのまま続けてよいのかと私は思うのです。そうすることにより全体的に学級数が減少していき、市部の学級編制・体系が歪んでいるという問題もあると聞いています。コミュニティーや地域の振興には高校の存在が非常に大きく重要だとは思いますが、そのような点も含めて、市部と郡部、どちらを優先するのか。もし、郡部の学校も学級減をするというのであれば、他の学校形態を考えるなど、そういう視点が重要です。

おそらく、専門委員会はこれまでの方式を踏襲せざるを得ないでしょうし、それに対して、我々はノーとは言えないでしょう。ただし、我々は検討会議ですので、思い切った視点で考え直してみてもよいのではないかという点が多々あります。

B委員、議論の方向性をお願いします。

B委員

工業高校も、専門高校の多様化という現実を受けています。実際、工業関係に就職することができる生徒は3割程度しかいなく、卒業者の内訳は、就職が6割、進学が4割。4年制大学がそのうち半分で2割となっており、非常に幅広い要求に応えなければならないのです。

しかし、就職に対してでも、要求に応える教え方ができているかという点を決してそうではありません。企業が求める即戦力ということであれば、おそらく5年程度は必要ですので、今の高専のような形にならなくては応えられないでしょう。10年後までのことを決めるのですから、専門高校に要求されているのは何かを把握することから始めて、制度の変更までを考える必要があります。

蛇口議長

そうなんです。ここ2～3年程度の話ではなく、10年という長いスパンの計画をどういう切り口で検討していくかなのです。たとえ答申には盛り込まれなくても、何らかの形で、知事や県議会に、このようなことが検討されましたということが残っていけばよいと思います。皆さんがおっしゃったように、少ない生徒達をどのように育てるのが一番よいか、ということ念頭に置きつつ、制度設計のやり直しを少し絡め

るのがよいのではないかという気がしています。

7月20日には、そういう論点を事務局の方に寄せていただいて、それについて思い切って議論してみる会議になれば面白いのではないかと思います。勿論、専門委員会の意見は拝聴しますが、そうすることで、専門委員会へお返しする意見が面白いものになるかもしれない。恐らく、我々は最終的には専門委員会の結論に従わざるを得ないでしょう。しかし、それに付随する意見にも役に立つものがあるのではないかと考えています。

他に、意見がありましたらおっしゃってください。

私は東京やドイツにずっと行っており、46年ぶりに八戸に戻って来ましたが、驚いたのは、普通高校にも様々な高校があるということです。私は八戸高校しか知らなかったのですが、率直に驚き、それで本当に子どもたちにとってよいのかな、と思います。

ドイツと言えば、10歳位ですぐにギムナジウムに入れるか、職業学校に入れるかを選択します。そして、入れて1年経ってから間違ってたと思えば、すぐにカムバックできる訳です。そういうことに慣れていると、語弊があるかもしれないですが、日本の制度は1つの学校で全部やろうとするから、総合学科ができたり、工業高校が総合学科のようになっていくのかもしれないと思います。ドイツではそうではなく、ギムナジウム、つまり進学校に行くんだ、でも行けなかったら駄目なんだ、という厳しさが出ています。

ドイツのように、10～12歳でというのは早過ぎるかとは思いますが、中学校の1～2年頃、13～14歳になったら働いて飯を食べる、というふうに言うべき年齢ではないでしょうか。とにかく欧米ではそうですが、職業訓練的な、そういうことを含んだ中高一貫なのではないでしょうか。私は教育者ではありませんのでそのへんが少し分からないのですが、やはり、そういう次期にやや甘いんじゃないかという感じがあります。

## C 委員

先程から市部の学校がクラス数を減らしているという話ですが、郡部の学校も2～3クラスという学校経営になっています。そうなると経費がかかるので、一番負担を受けるのは親です。学校とは、たくさんの方がいて色々な活動をするのが学校だと思います。先程から、昔とは違うという話ですが、昔であれば郡部からでも市内の進学校や専門学校などへ、下宿あるいは列車で何時間かかっても通ってた時代がありました。今はそうではありません。列車は通学経費がかさみ負担になるし、下宿もそうです。今は下宿する高校生はほとんどいなく、アパートで生活をしています。そういうことを考えると、学校とは最低3学級規模でないと経営が難しいといつも思います。

それでは、何でうちの学校へ目を向かせるかと言いますと、やはり生徒の活動になります。生徒の活動に力を入れていかないと、中学校の生徒はどんどん離れていきま

す。ですから、活動するためにも、生徒がたくさんいないとできない。これから先になると、生徒数がどんどん減っていきます。だから、このような会議をするのだと思います。学校という組織が、どれくらいの学級数で上手くいくのか。1学年に1クラスという規模では、ほぼ塾と同じだと思います。塾で勉強させるのか、あるいは学級数を多くして色々な競争をさせたり、活動をさせて人間を育てていくのか、ということを考えてきました。

これから10年先という話ですが、郡部の学校ではそこまで先は考えていられないと思います。親は、学校が今すぐ潰されるのではと考えたりしますし、先生さえもそうです。すぐに市内の学校に行きたいという希望の人もたくさんいます。ですから、学校そのものを、もう1回考える必要があります。そういう地域の人意見を聞いて回りたいです。よろしくお願いします。

蛇口議長

D委員何かありませんか？

D委員

県立高校の在り方等を考える会ということですが、拗ねた考えかもしれませんが、私学は県民ではないという感じを受けています。4分の1の県民の御子弟をお預かりし、公教育の一端を担っております。この少子化の中、公立より更なる特色を出し、成果をあげるために頑張っているつもりです。そして、成果があがっていると自信を持っています。

そのような中で、県全体の高校教育環境を見据えた立場から、お役所は考えていただければと願います。

蛇口議長

誰もそうは言ってないと思いますよ。

D委員

県全体で、公立・私立ともに県民のお子さん達を育てるということで、県立高校の適正規模・配置について、バランス等を考えながら進めていただければと思います。

蛇口議長

連携と言いますか、仲良くやりましょうということだと思いますが。よろしくお願いします。

それでは、あと1～2方ですね。E委員お願いします。

E委員

諮問書の中の理由書の中で3点ありましたが、言葉は表現が悪いのですが、入れ物の形、スタイルを強く意識してるのかな、と。入れた後の中身について、余り突っ込みが薄いような気がします。というのがよいのかは簡単には言えないのですが、ある観点から見ると、よく言われることですが、読み書きそろばん（計算）という基礎学力が、小中高で以前に比べて見劣りすると言われていています。将来青森を背負って立つ若者に対して不安なところがあると感じています。そういうところも答申の中で触れられないかと思っています。

#### 蛇口議長

大変結構な御意見ですので、そういう点も含めまして、7月20日の次回をにらんで、事務局に皆さんの御意見を取りまとめていただければ、次回よい議論ができるのではと思います。時間も無くなりましたので、締めではありませんが、F委員ひとつよろしくをお願いします。

#### F委員

締めにはならないとは思いますが、地域の中にある高校がある意味で小さい規模になった時、どんどん吸収されていっていいのかという課題は大きいと考えます。

先程Aさんがお話しされた、どういう形で地域の力とか、NPOの力と絡めて行くのかを考えていく時に、E先生がお話しなさったように、箱物だけのものと考えていくことと同時に、中学校から高校への中身のところを、私たちが次の世代の子どもたちを育てる時にどんな観点で育てるかという理念を再確認する場になったらと感じています。

#### 蛇口議長

素晴らしいまとめになりました。ありがとうございます。

まだまだ御意見もあろうかとは思いますが、時間になりました。先程からお願いしているのですが、事務局にまとめていただいて、19人というこじんまりとした会議ですからメーリングリストを作るまでもないとは思いますが、適宜発信いただいて7月20日に、フリーディスカッションという形でよいのではと思うのですが、そういう風につながっていただければと思います。

今日は、やや時間切れという形になりましたが終わらせていただきたいと思います。7月20日の次回に向けて、事務局からの説明で締めていただきます。

#### 事務局

ありがとうございました。それでは先程事務局案といたしまして、7月の20日を予定しております。その会議の時には、今日御説明をいたしましたこの現状と、そしてそれを踏まえての課題分析ということですので、皆様の方から事前に御意見をいた

だければと思います。事務局といたしまして後程皆様の方に、御意見、御質問という形で御提出いただきまして、次回会議までにそれを揃えて、検討の材料、資料にさせていただきますだければと考えております。よろしく願いいたします。

それでは、皆様のお手元に一枚物で置かせていただいている、次回の会議の日程でございますが、今のところ20日ということで予定はしておりますが、皆様の御都合もあろうかとは思いますが、その用紙に御記入をいただきまして、もし今日どうしても分からないという方は、後程FAXでも結構でございますので事務局までお届けいただければと思います。また、事務局に対して何か指示がございましたら、いつでも我々の方へ電話でもメールでもFAX、何でも結構でございます。当方の担当に連絡をいただければと思います。また、先日皆様にお手紙を差し上げまして、メール等での連絡ができれば、そちらの方でお送りさせていただくということでお願いしておりましたので、まとまりましたら、委員の方々の方に情報提供させていただきたいと思っております。

それでは、大変恐縮ですが、この会議が終わりましたら議長、副議長、それから専門委員会の委員長、副委員長、部会長は少しお時間をいただきまして、これからの審議の内容等について御相談がありますので、少しお残りいただければと思います。

それでは、どうもありがとうございました。